榛名神社社報

発行日　昭和五九年七月一日
発行所　沼田市榛名町二八五一
電話二尺八　(2)二六五五
(3)五一二二
発行人　金子包幸

榛名神社由緒記

神宮特別参拝を許さる

榛名神社の氏子総代・参拝団一同は昨年九月一十三日の神宮祭主豊岡利行殿参拝の際、神宮司庁奥宮特別参拝念して伊勢神宮参拝を計画し、敬神婦人会とも協力して参拝団を結成した。

二月中旬に神宮司庁奥宮特別参拝許可願を提出、三月一日付月次祭終了后ベス・留魂・集金等を協議した。今回特に注意した点は、

一、希望者を広く募ること
一、洗面深斎を広く徹底すること
一、海上旅の無事を心構え造りに注意した。

三月十日神宮司庁より「御垣内参拝」の御許可に接した。このことは普通の参拝者には別のお計らいで、あって以前なら「一定の有資格者にしか与えられなかった」ものである。

三月、十四日斎場成・参拝団結成奉仕祭を執行し加して道中安全・交通事故を祈願した。因にその神符は各宮司及び宮司が夫々拝持し、その神酒は雅楽師に食前頒与した。

愈る出発となります。三月二十四日午后十時、一号車十二名、号車三十七名計七十名（参与総代四十五名・敬神婦人一十五名）乗車終了出発、二十五日前六時三分名古屋小熱田神宮着、直ちに洗面深斎食り盃の内ち午前八時正参拝、関西楠宮司様から御挨拶を戴く。八時三十分伊勢へ向けて発車。

鄭重かな伊勢路は清々しく、両車輌共快適の中を正午伊勢市に着、両宮前の二光宮で二回の参拝。少遅れの内ち宇治橋藤井弥宜様の先導によって神域へ。

二時十鈴川下手水使い、禊を正しく清めて参道一間一杯として言葉を発する者なし。流石に榛名神社の役員の方々敬神婦人の方々は神宮御参拝の者だけ。

何となく在しすがは知らねども（西行法師）

恋けなさに涙こぼるる　参道である。伺候舎にて宮司が記帳、名刺、小塩抜いを受けて外宮玉垣を左方より入り、中鳥居の外整然列する。名誉宮司、宮司前進しよ拝三拍手二礼の時天高く晴れ、御正殿のそのそのお神しさに全員は感嘆まず、涙する人もありました。

大前を退下し奥殿にて神宮のお計らいによって直接玉串を奉献致した事は有難い次第であった。

よって午后一時半。

よって外宮、続いて三見女神参拝、夫婦岩参拝、内宮前の二見ケ浦、二時五十分参拝させて頂いた。尚猿田彦神社も参拝、后五時半伊勢市前で記念撮影、参拝、后五時半伊勢市の神宮会館到着。ゆっくり過ぎ入浴して旅の疲れを流した。

三十六日朝出発、鳥羽港から伊良湖へ、豊川稲荷参拝、

宮司社頭講話

◎心はどこにある？　私等は一生懸命に心をとどめて一人前になろうとはんとうに貴めて、心をとどめて一人前になろうとはんとうに貴めて、心を皮肉に体得されることもあるが、心とは精神のことであるが、心は一体何処にあるのであろうか。

心は一体何処にあるのであろうか。

子供に聞け「あたまにあるとこたえる」、青年に聞けば「心臓にあるとこたえる」、成人に聞けば「腹にあるとこたえる」。

大体は於て西洋人は心臓即ち心だと考えている。そして日本人は心は腹であると思われる。

東洋人は心は腹であると考えて来たのである。

腹が黒いか、腹が大きい、腹が小さいかと云うのは主として大人物のことである。

私等は腹を剪って人物を造り、腹を特別扱いて人を避け、腹を練って世の為に働きたいものである。

腹が据っている人は大人物である。

腹が据っている人は大きい。腹が据っている人は大人物のことである。

◎宗教とは何か人間が何時も安心して暮らしやゆける支柱であり、従って宗教に対する考え方は変遷する。

「宗教とは？」

「貧・病・争」を「貧乏・病気・抗争」でなければ心はなく病気の元である。抗争の中から貧苦が生じ、貧苦と世の中が争えば決出来るものが宗教である。

「貧」は「病」の元であり、「病」は「争」の元である。

「争」は「貧」の元である。